

# 校報

## 第四百七十四號

昭和十三年九月十七日

### 東京女子高等師範學校

#### 叙任及辭令

叙正六位

從六位  
目次了

平井美奈

東京女子高等師範學校助教諭

山崎清子

叙從七位(以上七月十五日)

從六位  
江本ヨシ

江本ヨシ

東京女子高等師範學校訓導

酒井繁子

叙正六位(八月十五日以上宮内省)

佐伯常麿

家事裁縫科生徒教育實習ノ指導ヲ囑託ス(九月養成所)

藤井壽子

勅任官ヲ以テ待遇セラル(八月内閣)

小林濟子

昭和十三年度第二回専門學校入學者試験檢定委員ヲ囑託ス(八月文部省)

宮島キヨ子

同

山崎清子

東京女子高等師範學校教授

齋藤英夫

陞叙高等官六等(九月内閣)

東京女子高等師範學校教授

堀七藏

東京女子高等師範學校教授

丹羽さく子

同

中澤伊與吉

東京女子高等師範學校教授

府中喜美

東京女子高等師範學校教諭

山形寛

東京女子高等師範學校教諭

岩間綠郎

同

目次了

東京女子高等師範學校教諭

西野みよし

東京女子高等師範學校教諭 木村 ぬみ  
 同 中村 ヨシ  
 東京女子高等師範學校助教 石田 はる  
 同 本間 延  
 從三位勳三等 下村 三四吉  
 神田 つね

教員檢定委員會臨時委員被仰付(八月二十六日內閣)

第二部部屬ヲ命ス(八月二十六日文部省)

彙報

●文部省訓令第二十四號 八月二十九日付ヲ以テ文部大臣ヨリ左記ノ通訓令アリタリ

今次事變一周年ニ方リ畏クモ優渥ナル 勅語ヲ拜ス。聖慮洵ニ恐懼ニ堪ヘザルトコロナリ。國民宜シク奉公ノ至誠ヲ效シ 聖明ニ應ヘ奉ラザルベカラズ。

今ヤ忠勇ナル皇軍神武ノ威ヲ以テ赫々タル戦果ヲ收メ、内國民拮据電勉相率キテ銃後ノ護ヲ鞏ウシ、國家總動員ノ實績ヲ舉グルモノ、咸是世界平和ヲ確立シ人類協和ヲ致ス所以ニ外ナラズ。然ルニ今尙往々國內一部ニ忌ムベキ差別的陋習ノ遺存スルヲ睹ルハ洵ニ憾ト

スルトコロナリ。是ニ於テ渾融輯睦以テ和協ヲ致シ、國民相互ニ敢テ軒輊ナカラシムルハ教育教化ノ力ニ俟ツモノ多シ。身ヲ之ニ致スモノ愈々肇國ノ大義ヲ明ニシテ國民一體同胞融和ノ實ヲ舉ゲ苟モ差別的觀念ノ如キ丞ニ之ヲ芟除シ、以テ天業翼贊ノ根蒂ヲ固カラシムルニ萬遺憾ナキヲ期セラレンコトヲ望ム

昭和十三年八月二十九日

文部大臣 男爵 荒木 貞夫

●教生配當 家事裁縫科第三學年生徒ハ左記ノ通教生トシテ配當セラレタリ(九月十六日ヨリ十月二十二日ニ至ル毎週金曜土曜ノ二日間教育實習ス 但中途ニ於テ交替ス)

高女

小學校

- |        |        |
|--------|--------|
| 阿部 智恵子 | 阿部 あい  |
| 安部 紋子  | 上田 敦子  |
| 青木 千枝子 | 牛澤 嘉代子 |
| 大塚 澄子  | 勝山 昌枝  |
| 太田 秀子  | 高坂 清子  |
| 岡部 幸恵  | 篠山 末子  |
| 上參郷 とし | 谷原 光   |
| 熊田 知恵  | 辻村 文江  |

小石川區大塚町七三へ

囑託 木村

都

高橋 文代 長 沼 弘 子  
坪井 定子 埜 比 乃

鶴見 あさ子 檜 山 美 枝

二宮 泰子 三 好 登 美 子

西澤 延子 山 本 知 子

吉田 瑞枝 吉 成 ツ ヤ

○附屬小學校

●授業時間變更 九月二十一日(水)ヨリ午前八時始業

午後二時終業トス但土曜日八午前十一時三十分終業トス

雜 錄

●職員應召 職員中應召セラレタルモノ左ノ如シ  
會計掛勤務履 池 田 藤 夫

●職員住所 職員中轉居セシ者左ノ如シ  
講師 石 田 龍次郎

市外吉祥寺五二〇へ 講師 中 澤 伊與吉

豊島區長崎仲町一ノ二四八〇へ 教授 高 井 浩

牛込區早稻田南町四〇へ 訓導 同 大 橋 富貴子

豊島區池袋一ノ六〇八へ 同 大 橋 富貴子

麻布區飯倉三 東京天文台内 (電話赤坂二二二番)

講師 藤 田 良 雄